

検査項目説明書(生理検査)

【検査項目説明・注意事項】と【検査できない方】

	検査項目	検査項目の説明	検査を受ける際の注意事項	こんな方は検査できません
心肺機能	安静時心電図	両手首と両足首の4か所、胸に6箇所の電極を取り付けます。心臓の電気信号を波形として描いたものです。心筋梗塞、狭心症、不整脈などの心疾患がないか調べます。	動いたり体に力が入ると正確な心電図が記録できないので、できるだけ全身の力を抜いて楽にしてください。	パーキンソン病で脳深部刺激療法を受けられた方。
	負荷心電図	負荷台を決められた時間昇り降りし運動による心電図変化を記録します。運動で誘発される狭心症や不整脈がないか調べます。	運動を行いやすい服装で検査を受けてください。検査中に胸の痛みやヒザ痛、めまいなど体に異常を感じたらすぐにお申し出ください。	パーキンソン病で脳深部刺激療法中の方。 心臓、血管に大きな病気のある方。 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 急性期心筋梗塞発症 不安定狭心症 早期症 コントロール不良の不整脈 症候性高度大動脈弁狭窄症 急性・重症心不全 急性肺塞栓 急性心膜炎 急性心筋炎
	ホルター心電図	小型軽量の専用レコーダーを身につけて、日常生活中や睡眠中の心電図を24時間連続で記録します。不整脈や狭心症の診断に最も有効な検査です。	入浴やシャワーは利用できません。機器を水に濡らさないでください。 ノイズが混入しやすくなるので電気毛布、電気カーペットは使用できません。機器に強い衝撃、振動を与えたり、落下させたりしないでください。	パーキンソン病で脳深部刺激療法を受けられた方。
	肺機能検査	肺への空気の出入りに関する機能を調べるため、空気が漏れないように鼻をクリップでつまみ、筒をくわえて、臨床検査技師の指示に従って息を吸ったり吐いたりします。肺の疾患の病態把握、診断、治療法の選択、経過観察、手術適応の決定などに役立ちます。	正確な検査結果を得るために、臨床検査技師の指示に従って精一杯息を吸ったり吐いたりしてください。入れ歯を付けたまま検査が可能です。	感染性の結核患者 感染性の結核が疑われる患者
	精密肺機能検査	肺機能検査に加えて、ガスを用いて詳しく呼吸障害の程度を調べる検査です。最大限空気を吐ききった時点で肺の中にどれくらい空気が残っているか、肺から酸素が効率よく血液に取り込まれているかどうか、肺全体に均等に空気が送り込まれているかなどを調べます。		
	呼気NO濃度検査	臨床検査技師の指示に従って、専用の機器に息を吹き込んで測定します。喘息の診断や気道炎症の評価に有用な検査です。	専用の機器に一定の速度で息を吹き込んでください。	感染性の結核患者 感染性の結核が疑われる患者 一定の速度で息を吐くことが出来ない方 (例)乳児や幼い子供、気管切開患者、酸素吸入患者

	検査項目	検査項目の説明	検査を受ける際の注意事項	こんな方は検査できません
心肺機能	トレッドミル エルゴメータ	心電図と血圧を記録しながら、運動します。 年齢・性別・病状に合わせた運動で、心臓の機能や運動耐容能を調べる検査です。 医師の立ち会いのもと行われます。 トレッドミル：時間ごとに速度、傾斜が増加するベルトの上を歩いたり走ったりします。 エルゴメータ：固定式自転車のペダルを漕ぎながら、運動します。	お手洗いは検査前にお済ませください。 運動を行いやすい服装で検査を受けてください。 検査中に胸の痛みやヒザ痛、めまいなど体に異常を感じたらすぐにお申し出ください。	パーキンソン病で脳深部刺激療法中の方。 心臓、血管に大きな病気のある方。 急性期心筋梗塞発症 不安定狭心症
	トレッドミル(CPX) エルゴメータ(CPX)	運動中の心臓の機能と、吐いた息に含まれる酸素と二酸化炭素の濃度から肺の機能を同時に測定し、心臓リハビリテーションの運動療法に必要な運動強度を調べます。 医師の立ち会いのもと行われます。 トレッドミル：時間ごとに速度、傾斜が増加するベルトの上を歩いたり走ったりします。 エルゴメータ：固定式自転車のペダルを漕ぎながら、運動します。	お手洗いは検査前にお済ませください。 運動を行いやすい服装で検査を受けてください。 検査中は声を出さないでください。 検査中に胸の痛みやヒザ痛、めまいなど体に異常を感じたらすぐに手を挙げるなどしてお知らせください。	
	ABI	両腕と両足に血圧カフを巻き2回ほど血圧測定します。 血圧、動脈の「硬さ」と「詰まり」から動脈硬化の程度がわかります。	検査前にシャントやペースメーカーの有無について質問しますのでお答えください。 検査中は動いたり声を出したりせず、力を抜いてリラックスしてください。血圧測定の圧により痛みが生じる場合は我慢せずに知らせてください。	両足を切断した方 両腕を切断した方 傷または潰瘍がある方 両上腕にシャントがある方
	SPP(皮膚灌流圧)	左右の足の裏と甲にセンサーとカフを装着し、皮膚表面から約1mmの深さの毛細血管がどの程度の圧で皮膚に流れ込んでいるかを測定します。	お手洗いは検査前にお済ませください。 検査中は動いたり声を出したりしないでください。 潰瘍に近い位置にカフを巻き加圧しますので一時的に痛みを感じる場合があります。しばらくすると減圧しますが、もしも痛みが強い場合はお申し出ください。	特になし。
	体成分測定 (インボディ)	両手の親指と中指、両足のくるぶしに電極を装着して測定します。 体の水分・蛋白質・ミネラル・体脂肪の過不足を評価し、正しい健康管理の指標とする検査です。	検査3時間前から食事をしないでください。 検査3時間前から水分摂取を控えてください(喉の渇きを解消するための少量の水分摂取はして良い)。 トイレは検査前にお済ませください。	心臓ペースメーカーを装着している方。 心臓ペースメーカー以外で、体内に埋め込み型の医療機器がある方。 妊娠している方。
	基礎代謝	安静仰臥位にて呼吸をする、心臓を動かさず、体温を保つなどの生命維持活動のために常に使用するエネルギーを測定する検査です。早朝空腹時安静状態で行います。	検査前日は過労を避け、食事は適度に摂取し、早めに就寝してください。 検査当日は飲食せず、タバコも吸わず、安静にしてください。	酸素吸入している方
心エコー	心臓超音波検査	心臓の心室や心房の大きさ、壁の厚さや動き、弁の形態や動きなどを調べます。	検査中は上半身薄着になっていただきますので着脱しやすい服装で来てください。ワンピースやボディスーツなど上下が繋がった服装は避けてください。	特になし。

	検査項目	検査項目の説明	検査を受ける際の注意事項	こんな方は検査できません
心エコー	経食道超音波検査	胃カメラのように、口から食道に直径約1cmの超音波発信器がついている管を入れて行います。通常の心臓超音波検査よりも詳細な検査が可能です。	検査予約時間の4時間前、検査後1～2時間は絶飲食です（検査後絶飲食の時間は医師の指示に従ってください）。入れ歯の方は検査前に外していただきます。喉の麻酔をしてから検査を行います。麻酔薬に対してアレルギーをお持ちの方は、事前にお申し出ください	特になし。
	下肢静脈検査	下肢（足の付け根から足首まで）の静脈に超音波をあて、血栓の有無や血液の流れを調べます。	下半身は下着1枚になり、その上から使い捨て検査着に履き替えて検査します。着脱しやすい服装で来てください。検査が長時間になる場合があります。検査前にトイレを済ませておいてください。	
	下肢動脈検査	下肢（足の付け根から足首まで）の動脈に超音波をあて、動脈の閉塞や狭窄の程度を調べます。	下半身は下着1枚になり、その上から使い捨て検査着に履き替えて検査します。着替えやすい服装で来てください。検査が長時間になる場合があります。検査前にトイレを済ませておいてください。	
	上肢静脈検査	上肢の静脈に超音波をあて、血栓の有無や血液の流れを調べます。	着脱しやすい服装で来てください。	
	上肢動脈検査	上肢の動脈に超音波をあて、動脈の閉塞や狭窄の程度を調べます。		
	腹部動脈検査	腹部大動脈やそこから分岐する血管に、狭窄や瘤、解離などがないかを調べます。	検査予約時間の4時間前より絶飲食です。着脱しやすい服装で来てください。	
	頸部動脈検査	頸部（首の部分）の動脈に超音波をあて、血管壁の状態や血液の流れを調べます。	首まわり出やすい服装で来てください。ネックレス等は外してください。	
脳波	脳波検査	脳から生じる微弱な電気活動を頭皮上の電極から増幅し、波形として記録したものです。覚醒や睡眠の状態、脳の機能障害（てんかん、意識障害）の有無、その広がりを無侵襲に検査をします。	整髪料、油類、スプレー等は髪につけないで下さい。できるだけ前日に洗髪して下さい。また、ピアス、イヤリング等は外して下さい。 乳幼児の場合、前処置のお薬を飲んで頂きます。検査予約時間の1時間前に受診科の外来でお薬を飲んで下さい。お薬の効きを良くするために、検査前日の睡眠時間をできるだけ短くし、来院前に眠らせないようにお願いします。 検査時、脳から発生する微弱な電流を測定するために頭皮にクリームを付けます。検査後、お湯で濡らしたガーゼで拭き取りますが、少し髪がみだれる場合があります。	安静を保てず、電極の装着が困難な方。
	聴性脳幹反応（ABR）	音の刺激により発生する、聴覚伝導路および脳幹部からの電位を記録します。聴力や聴神経機能の検査をします。	乳幼児の場合、前処置のお薬を飲んで頂きます。検査予約時間の1時間前に受診科の外来でお薬を飲んで下さい。お薬の効きを良くするために、検査前日の睡眠時間をできるだけ短くし、来院前に眠らせないようにお願いします。 検査時、脳から発生する微弱な電流を測定するために頭皮にクリームを付けます。検査後、お湯で濡らしたガーゼで拭き取りますが、少し髪がみだれる場合があります。	安静を保てない方。

	検査項目	検査項目の説明	検査を受ける際の注意事項	こんな方は検査できません
脳波	筋電図検査	末梢の神経を刺激することにより導出される活動電位による障害部位の検出と神経機能の客観的な評価をします。	検査前の食事制限などはありません。 電気刺激を用いて人工的に末梢神経を興奮させ、神経や支配筋に生じた活動電位を記録するため、若干の痛みや不快感を伴うことがあります。	検査に協力できない方。
	終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)	口鼻の気流、血中酸素飽和度、脳波などを記録して、睡眠中の呼吸状態を調べます。	1泊2日、または2泊3日の検査入院です。 夕食後から翌朝起床時まで、機械を装着します。 検査の解析には十分な睡眠時間が必要です。睡眠時間が少ないと解析できない場合があります。	
腹部エコー	腹部エコー検査	腹部に超音波を当てて、腎臓、脾臓、肝臓、膵臓、胆嚢、総胆管、腹部大動脈、リンパ節、膀胱、前立腺、子宮、卵巣、消化管に異常が無いかを調べます。	検査前日の夕食は軽くとってください。午後9時以降から水・お茶以外は飲食しないようにし、検査当日は水のみにとどめてください。腹部全体を検査しますので、着脱しやすい服装でお越しください。	特になし。
	乳腺エコー検査	乳房と脇に超音波を当てて、乳腺、リンパ節に異常が無いかを調べます。	上半身の衣服を脱いで検査をいたしますので、着脱しやすい服装でお越しください。食事の制限はありません。	
	頸部エコー検査	首まわりに超音波を当てて、甲状腺、顎下腺、耳下腺、頸部リンパ節に異常が無いかを調べます。	首まわりが出やすい服装でお越しください。ネックレスは外してください。食事の制限はありません。	
	頸動脈エコー検査	首まわりに超音波を当てて、頸動脈の動脈硬化の程度を評価します。	首まわりが出やすい服装でお越しください。ネックレスは外してください。食事の制限はありません。	
	精巣エコー検査	主に乳幼児を対象に、超音波にて精巣の位置や大きさを観察します。	特になし。	
生体機能	純音聴力検査	最も基本となる聴力検査であり、125Hzから8000Hzの7種類の純音を用いて閾値を測定します。気導閾値と骨導閾値を測定することにより、難聴の程度、種類の判定に有用です。被検者の応答が大切になる自覚的聴力検査です。	検査前15分はイヤホン等で過大な音を聞かないでください。 メガネ、イヤリング、ピアス等は外していただきます。	呈示した音に対して正しく応答できない方。
	語音聴力検査	語音を用いてことばの聞き取り、聞き分けを検査します。社会生活における適応度や補聴器装用の重要な情報となります。被検者の応答が大切になる自覚的聴力検査です。		

	検査項目	検査項目の説明	検査を受ける際の注意事項	こんな方は検査できません
生体機能	自記オーディオ検査	「音が聞こえている間ボタンを押し続け聞こえなくなったら離す」ということを繰り返し聴力閾値レベルを測定する検査です。被検者の理解度や集中力に影響を受けます。持続音と断続音で測定することにより難聴の種類や障害部位の鑑別に役立ちます。	検査前15分はイヤホン等で過大な音を聞かないでください。メガネ、イヤリング、ピアス等は外していただきます。	呈示した音に対して正しく応答できない方。
	耳鳴検査	オーディオメータを用いて、耳鳴に近い音の種類、大きさを調べる検査です。		
	SISI	ある一定のわずかな音の強さの変化を感知することが出来るかいなかの検査です。		
	チンパノメトリ	外耳道を密閉し、一定の検査音がどの程度鼓膜から反射されるかを容積の変化によりとらえる検査です。鼓膜や耳小骨の可動性や中耳腔の状態、顔面神経麻痺の状態や難聴の程度を推測することが出来ます。	特になし。	体動の激しい方。
	耳小骨筋反射			
	歪成分耳音響放射(DPOAE)	2種類の純音を与えることにより反射する音の歪成分を分析する検査です。内耳の外有毛細胞の状態を反映します。他覚的聴力検査です。	乳幼児の場合、前処置が必要です。	
	平衡機能検査	直立時の開閉眼によるふらつきや、閉眼足踏みによる回転方向、角度により体平衡の状態を知る検査と、眼振の状態により、三半規管や前庭の機能を知る検査があります。	検査に伴い一時的にめまい感、気分不良が生じることがあります。	指示通りの対応が困難な方。 立位姿勢が維持できない方。 開眼の維持が困難な方。
	vHIT	専用のゴーグルを装着し、眼球運動と頭部運動より三半規管や前庭の機能を知る検査です。		指示通りの対応が困難な方。 開眼の維持が困難な方。
	温度刺激検査	外耳道に冷水を注入することにより引き起こされる眼振を赤外線CCDカメラで記録します。前庭機能の検査です。		